

製品名: Pax-5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15788**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|---------------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000 |
| 分子量 | 40kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | PAX5 |
| 別名 | PAX5; Paired box protein Pax-5; B-cell-specific transcription factor; BSAP |
| 遺伝子 ID | 5079.0 |
| SwissProt ID | Q02548 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト Pax-5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50 |

背景

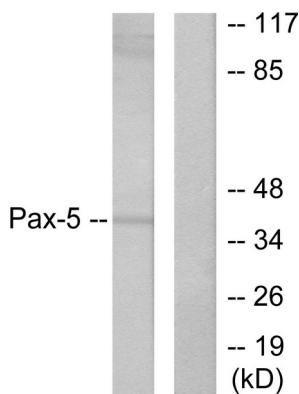
この遺伝子は、ペアボックス（PAX）転写因子ファミリーのメンバーをコードしています。この遺伝子ファミリーの中心的な特徴は、ペアボックスとして知られる、新規かつ高度に保存された DNA 結合モチーフです。ペアボックス転写因子は初期発生における重

要な調節因子であり、その遺伝子発現の変化が腫瘍性形質転換に寄与すると考えられています。この遺伝子は、B細胞分化の初期段階で発現しますが、後期段階では発現しません。この遺伝子の発現は発達中の中枢神経系および精巣でも検出されているため、コードされているタンパク質は神経発生および精子形成にも役割を果たしている可能性があります。この遺伝子は9p13に位置し、形質細胞様サブタイプの小リンパ球性リンパ腫および派生大細胞リンパ腫で再発するt(9;14)(p13;q32)転座に関与しています。この転座により、強力なE-muエンハンサーが発現します。発生段階:B細胞分化初期、発達中の中枢神経系、および成人の精巣で発現します。疾患:PAX5が関与する染色体異常は、急性リンパ性白血病の原因です。転座t(9;18)(p13;q11.2)はZNF521と関連しています。転座t(9;3)(p13;p14.1)はFOXP1と関連しています。転座t(9;12)(p13;p13)はETV6と関連しています。機能:B細胞分化、神経発達、精子形成において重要な役割を果たす可能性があります。Bリンパ球特異的標的遺伝子であるCD19遺伝子の調節に関与しています。PTM:O型グリコシル化されています。類似性:1つのペアドメインを含みます。サブユニット:DAXXと相互作用します(類似性による)。モノマーとしてDNAに結合する。TLE4に結合する。

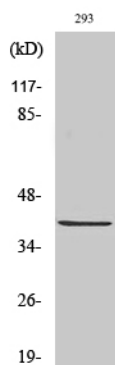
研究分野

神経科学、神経プロセス、神経発生、エピジェネティクスと核シグナル伝達、転写、ドメインファミリー、発達ファミリー、PAX

画像データ



Pax-5抗体を用いた293細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



Pax-5ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。